

廿日市市
地域支援員だより

2023

秋号



特集

この度、新たな地域支援員が誕生しました！
その名も「商店街活性化担当」！！

～表紙の写真～

ウッドワンさくらびあエントランスで地域支援員勢ぞろい。

地域支援員とは

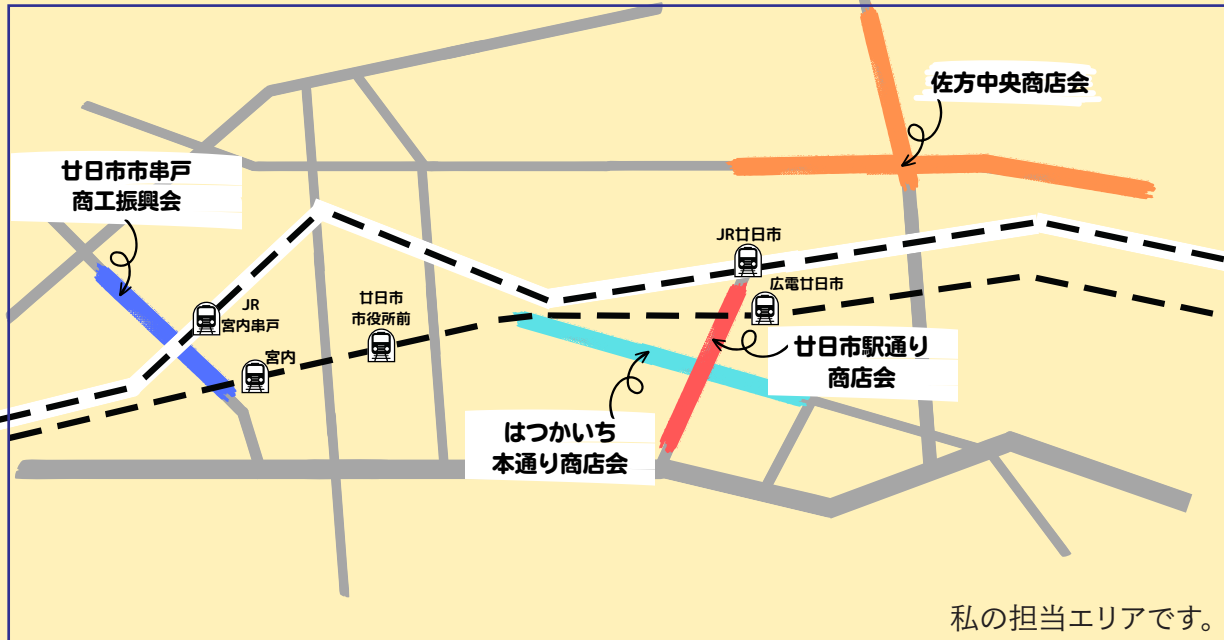
それは、地域情報を発信したり、一緒に地域おこし活動をしたり、地域内外の交流をはかったりしながら、地域の力を強くするために廿日市市の職員として1年単位で任用された人のこと。

任期は最長で3年間。その限られた時間の中で、何をやっているのか、廿日市でどんな動きがあるのかを知ってもらいたくて、この冊子を作りました。年に4回、お届けします。

■商店街活性化担当の地域支援員とは

廿日市市内の商店街の持続的な活性化を図るため、商店会や商工会議所・商工会、行政、地域などと一体となり、現場起点で様々な新しい取り組みにチャレンジし、空き店舗の解消やにぎわい創出、エリア価値向上などの取り組みを行う人です。

商店街のにぎわいづくりに向けた取り組み、商店の魅力向上や売上向上のための支援、商店街の情報発信、空き店舗調査の実施、空き店舗の利活用に向けた企画立案など、商店街の活性化につながる活動を行っていきます。



私の担当エリアです。

はじめまして。令和5年度5月から商店街活性化担当の地域支援員として任用されました、狩山穂香(かりやまほのか)と申します。現在、地域支援員としての活動を軸に、ラジオパーソナリティ・劇団に所属し劇団員としても活動しています。

かりやま 穂香
狩山 ほのか

■今後の抱負

廿日市は、宮島、世界文化遺産「厳島神社」や大鳥居、宮島彫りや杓子など魅力いっぱいです。そんな魅力たくさんの廿日市には、昔ながらのどこか懐かしい商店街があります。商店街の方々のあたたかさや場所の心地よさ。商店街でしか味わえない魅力をもっとたくさん知って、来て、また来たい!と思ってもらいたい。商店街の方と一緒に商店街活性化のために活動していきます。よろしくお願いします。



■応募した動機

ラジオ局の上司に地域支援員という仕事があるよと紹介してもらったのがこの活動を知るきっかけでした。

学生時代のバイト先が宮島だったり、廿日市のラジオ局で働けていたりなど思い返せば廿日市という場所が身近にありました。しかし当初は地域支援員という仕事はどんなものか知りませんでした。

そんな時、先輩地域支援員の方に直接お話を聞くことができ、とてもやりがいある仕事だなと思い応募させていただきました。

「商店街活性化担当」

各商店街について

廿日市は、日本で古くから親しまれている木工玩具「けん玉」発祥の地です。平成26年には「第1回けん玉ワールドカップ」が開催され、今年も第10回が開催されました。日本国内だけでなく世界からも多くの方が参加!夜にはJR廿日市駅から国道2号線に縦にのびる「廿日市駅通り商店街」愛称は「けん玉

商店街」で、「けん玉deナイト」を開催。日本と世界の交流の場ともなり大変盛り上がりしました。

そして、その横にのびる「はつかいち本通り商店街」。ここは当時大阪から下関までをつないだ江戸時代の主要街道のひとつ「西国街道」でした。この路を歩くと、当時の歴史を感じることができる多くの寺

社仏閣があり、9月には商店街最大のお祭り「二百廿日豊年市民祭」が開催されます。毎年、歩くのがやっとなほど多くの方が訪れ、にぎわいを見せます。

続いては、「佐方中央商店街」。令和3年の12月に佐方地区と城内地区をつなぐ新佐方大橋が開通。利便性が高くなりました。そんな便利に

なった佐方商店街は、とにかく長い!歩けば歩くほど様々なお店に出会うことができます。お気に入りのお店も見つかるかもしれません!

最後に、「廿日市市串戸商工振興会」。ここは、駅の近くであり、広島中心部エリアや県外へのアクセスも良好なエリアです。2021年には、「本当に住みやすい街大賞

in広島」で第8位に選ばれました。瀬戸内海の豊かな自然に囲まれ、JRや広電がすぐ近くにあり、バス停もあるため四季が丘・佐伯地域からも多くの方が足を運びます。利便性が高く、住みやすい!個店数は少ないですが、魅力あふれるお店ばかりの商店街です。

学校行事

この夏学校であったイベントや、「生徒の自由な発想のもとに様々な課題解決を目指す研究活動」の授業での、地域活動についてお伝えしています♪

6月

に佐伯高校生が出店しました。3年生の作ったわなげや射的のゲームでは、地域の子供たちも大喜び！何度もくり返し遊んでくれました。2年生の作ったわらび餅は出来たてで温かく、とっても美味しかったですよ！



8月



津田夏祭りでは2年生が味のバリエーションを増やして、再びわらび餅を販売しました。たくさんの方々が来店してくれました。

秋パージョンも続けて発売！
四季に応じた味わいをお届けする予定の「ちいと山ジェラート」。夏パージョンはグリーンアスパラ・トマト・梅・ブルーベリーでしたが、秋パージョンは、新米・梨・かぼちゃ・プラムをジェラートにします。通年あるアイテムとしては津保美堂さんのあんこを使ったあずきミルクジェラート、佐伯醤油さんの特選醤油を使った醤油ジェラート

申し込み・お問い合わせ先
特定非営利活動法人
NPO あぞはらまで
(浅原交流会館)
7822650



7月
さいき文化センターまつりに、3年生が再びわなげの出店をしました。絵の上手な子は景品のお菓子の絵を描いて盛り上げます。クラスマッチの日は、1日中バレーボールを行いました。汗だくで頑張る生徒たちは、うらやましくなるほどキラキラしていました！



佐伯高校には市が主催する無料の塾があります。放課後に行われ、勉強はもちろん、楽しみながら世界や自分と向き合える授業も開催。いろいろな角度から成長できる佐伯高校です！

公営塾

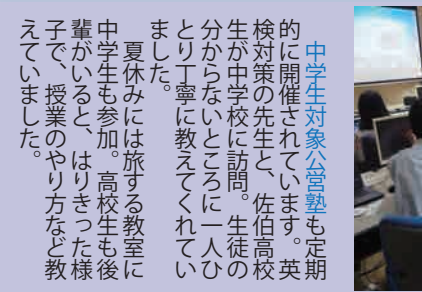
佐伯高校には市が主催する無料の塾があります。放課後に行われ、勉強はもちろん、楽しみながら世界や自分と向き合える授業も開催。いろいろな角度から成長できる佐伯高校です！



先生が別の生徒を教えているときには、1年生にやさしく先輩が教えてくれました。



旅する教室という公営塾では、「間違ってもいいから、伝わる英語を話せるようになる」という考えで授業が進みます。写真は連想ゲームでなんとか伝えたい生徒が、懸命に伝えている様子。



中学生対象公営塾も定期的に開催されています。英検対策の先生と、佐伯高校生が中学校に訪問。生徒の分からないところ一人ひとりに丁寧に教えてくれました。



佐伯高校魅力化担当 (稲田 元樹)

佐伯地域の特産品を使った「ちいと山ジェラート」

完売御礼

佐伯地域の特産品を使って、宮島口のジェラートショップ Loopさんと地域支援員で共同開発した「ちいと山ジェラート」。

個人にはお米のジェラートに興味津々です。ばら売りしてほしいという声も多く頂戴したので、秋パージョンはイベント限定になりましたが、ばら売りもする予定です。

おかげさまで夏パージョンは追加製造したのも含めて完売しました。佐伯を離れて住むご家族や知人に贈られた方、Loopさんのジェラートが好きとおっしゃる方などにご利用頂きました。原材料を準備してくださった生産者の皆さんにも、ジェラートになるとこんな風になるんだ！という驚きにつながったのではないかと考えています。

- セット販売(6種8個入り) 店頭渡し4200円
- 冷凍便でお届け 5500円
- 予約販売のみ 限定50セット
- ばら売り 1個 500円 (イベントでの販売のみ)
- 予約受付場所
ナガスタ・ひふみ市場・浅原交流会館・玖島花咲く館



ご予約はこちらから



【秋】新米・梨・かぼちゃ・プラム

玖島地区活性化担当 (義志 裕子)

「R5年度マコモタケ 収穫スタート」

いよいよマコモタケの収穫が始まろうとしています。マコモタケは植え付けから約150日、外気温が25℃を下回る日が数日続くと茎の部分が大きくなり、収穫ができるようになります。

昨年は9月27日前後に収穫が始まったので、9月末に収穫が始まると予想しています。

今年は雨が多かったことから生育が心配でしたが、マコモタケは順調に育ち、昨年より株も大きく青々と育ちました。収穫まで日にかがあるのが、最後まで気を抜かず管理をしています。



今年のマコモタケ

「レシピ作り」

前回マコモタケを試食していただいた際に、「食べ方がわからない。レシピがほしい。」といった声が多く寄せられました。そのため、地域のコミュニティに協力をしていただいで、マコモタケのレシピ作りを進めています。作成後は販売場所で配布を行い、初めての方でも安心して調理できる体制を整えていきます。

「販売について」

現在、地元のスーパーや産直市場へ出荷するほか、現地圃場での販売も計画しています。

初めての販売になるので不安が大きいですが、積極的にアピールをして、1人でも多くの方にマコモタケを味わっていただけるよう尽力していきます。

農業活性化担当（中山 理公）

新メンバーのご紹介

田崎 裕司
たさき ゆうじ

9月から、定住推進担当として任用されました。次号で自己紹介とあいさつをさせていただく予定です。お楽しみに〜!!



News&Information

今号から地域支援員だよりに変更しました。変更した理由は、1ページ目の記事にもあるように、商店街活性化担当地域支援員が任用され佐伯吉和地域以外でも、地域支援員の活躍の場が広がったからです。

正式名称は「廿日市市地域支援員だより」で変わりましたが、愛称が「さよしキント山」から「キント山 プラス」にしました。「+」のデザインには、廿日市の旧町村地域の5地域が組み合わさっています。

旧吉和村は村の木であったハチロウスギの葉の色のみどり色、旧佐伯町は「水と緑の町宣言」（昭和63年9月施行日）から薄い緑色、旧大野町の町の木であったベニマンサクの色からピンク色、旧宮島町は瀬戸内の海の色から水色、そして中心部を表すむらさき色で旧廿日市市地域を表しています。

各地域で活動している地域支援員全員が協力し、廿日市市全域の発展を願ってデザインしました。

浅原地区活性化担当（西本 智詞）



編集後記

みなさん、こんにちは。今号から廿日市市地域支援員だよりの編集をさせていただきます、稲田です。

この度、新たな地域支援員が任用され、活動を始めています！いままで中山間地域のみで活動していた地域支援員が、沿岸部にある商店街を活性化させるべく、誕生しました。さらに、この秋定住推進担当の地域支援員も新たなメンバーに代わり、ますます新しい風が吹く予感です。（稲田 元樹）